

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社
代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。まだまだ寒さが厳しいですが、このところ日が長くなったように思えます。

人に1人が高齢者になる時の日本の介護を支えるのは「ケアリング(caring)=人の心の優しさ→自分以外の事でないのに心配する人」だとの話に感銘を受けました。以前より日本人の礼節が高く世界から評価されておりますが、この言葉を忘れずにありたいものだと考えます。

春の訪れが待ち遠しいですが風邪など召しません

ようにお気を付けてください。

先日の研修で講師の方がこれから2060年に向け2

サンライズの物語

命に携わる認識の大切さ——

心構えを憂う物語



その方との出逢いは退院した当日のことでした。訪問すると呼吸苦に苦しみ話もできない状態、退院時に担当医からは自宅へご本人が戻りたいと言っているので退院しても構わないとの話だけだったとの事。

すぐ様、知り合いの訪問診療の先生に連絡をしたところ在宅酸素を自宅へ運んでくれましたが、訪問診療の先生からも「こんな状態で何故退院になったのか？」との質問がありましたが、家族の方々は「父は自宅へ戻りたがっていましたが、まさかこんな状態だとは説明を受けていない」との事。

自宅で各サービス事業所と連携を取り毎日訪問していましたが状態が悪化し退院した病院へ緊急搬送となったのです。病院の相談員からも連絡が来ましたが「あんな状態で退院させるのは酷いですよ」との問いに「退院連携は担当医と担当看護師からの指示なので退院前会議は行わなかった」との見解。

その後家族に看取られながら永眠されたのでした。後日ご家族宅へお悔やみの訪問をすると、何故あの時にあの病院へ入院させたのかと担当医への不満とご家族が自分達の対応への後悔と悲しみに涙を流されておりました。「ご家族様の色々な思いや後悔はあるかも知れませんが、その場ではあの判断が最善だったと思いませんか？ご家族がご自分達を責めて生きる事をお父様は望んでないと思いますよ」と言うのが精一杯で私も涙が零れて止まりませんでした。

地域との連携、地域ケアネットの推奨が叫ばれている中病院側の対応、担当医から自宅へ戻る時のリスクの家族への説明が何故されなかったのか残念でたまりません。私達介護職だけではなく、医師会など他職種も認識を高めなければならないのではないかと考えます。

サンライズのデイサービス陽光だより



【送迎ドライバー】
須藤 吉弘

サンライズのデイサービス陽光の送迎ドライバーの須藤 吉弘です、よろしくお願いたします。

以前もデイサービスで送迎ドライバー約2年間、務めておりました。今までの経験を活かして皆さまを安全、安心に送り迎えして参ります。安全運転で頑張っております。

【入社9/1】 【血液型A型】



井上から
エール！

ベテランドライバーさんです。
安全運転をお願いします。

介護に役立つ書籍紹介

高齢者が元気になるレクリエーション

著者：三瓶 あづさ 監修：土井 剛彦

高齢者施設で実際に役に立つ、かんたんなレクリエーションを50以上紹介しています。認知症予防として注目されている運動プログラム、「コグニサイズ」も収録。また、ゲームをより盛り上げる工夫として難易度アップの仕方やスタッフの声かけ例なども掲載。レクリエーションのマンネリ化を防ぐ、施設の利用者にもスタッフにもうれしい一冊です。



NEWS 今月のニュース

「今を懸命に生きて」

TIMゴルゴ松本さん命の授業

お笑いコンビTIMのゴルゴ松本さん（51）が19日、佐賀市のグランデはがくれで「命の授業」と題して講演した。ゴルゴさんは、長い間受け継がれてきた漢字の意味に独自の解釈を加えながら、今を懸命に生きる大切さを訴えた。

「日本語は母（母音）の愛（あい）で始まり、恩（をん）で終わる」「『大切』は『大きく切る』ではなく『切磋琢磨（せつさたくま）』して心を磨くこと」「『出来る』と思い、力を出したら未来は来る」。

ゴルゴさんは体全体を使い、ユーモアを交えながら表現した。先人から伝わる漢字には多くのヒントがあるといい、「自分で調べることで、未来を生きるための自分なりの答えが見えてくる」と語る。

ゴルゴさんは2011年から、少年院でボランティアの講演を続けている。「言葉は『言の葉』『言霊』として未来に戻ってくる」と強調。いじめられている子どもたちに向けては「『心の音』である意志を人に伝えて助けてもらって。一生懸命生き、命を未来に継続して」と呼び掛けた。

講演会は、幅広い世代に日々の暮らしを健康的で豊かに送っても

らうことを目的にした「スミセイウエルネスセミナー」（住友生命福祉文化財団・佐賀新聞社主催、住友生命保険相互会社佐賀支社協賛）の一環で、430人が参加。介護用品の展示や筋力測定の体験コーナーも設けられ、来場者は健康の大切さを再認識していた。



<佐賀新聞
2019年1月20日(日) >

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>